

平成24年度 第3回経営協議会議事録

日時 平成24年12月13日（木）13時30分から15時30分
場所 本部棟第1会議室
出席者 【委員】 古山学長（議長）
荒巻委員、位高委員、乾委員、小林委員、齊藤委員、
堀場委員、矢嶋委員、藪内委員
森迫委員、竹永委員、林委員、山下委員、松野委員
【陪席者】 吉田監事 竹葉監事、松室学長補佐
施設マネジメント課長、評価・広報課長、
人事労務課長、財務課長

議事に先立ち、学長より前回（平成24年度第2回）の議事録について確認が行われた。

審議事項1. 役員退職手当規則の一部改正について

山下財務・労務担当理事より役員退職手当規則の一部改正について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

審議事項2. 職員退職手当規則の一部改正について

山下財務・労務担当理事より職員退職手当規則の一部改正について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

審議事項3. ミッションの再定義に係る検討状況・対応の方向性について

財務課長よりミッションの再定義に係る検討状況・対応の方向性について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

本件に関し、委員より以下の意見が寄せられた。

①文科省意見交換資料（案）の内容に係る意見

- ・資料案において、地域連携という点は強調されているが、全体的に国際交流の話が少ないのではないか。
- ・学生の受賞歴・実績を掲載しているが、単に羅列するだけでなく、まず大学としての人材育成の方針があり、その方針に従って、このような教育を実践した結果が、学生の受賞歴と繋がっていることを論理立てて説明すべき。
- ・府大、府立医大との3大学連携などは、文部科学省からも一定の評価が得られているものであり、大学改革実行プランにも対応するので、今後の展開と

して強調していくべき。

- ・昨今、教養教育の位置づけについての議論がなされているが、文系・理系ともに根っこは同じなので、3大学が連携して教養教育の共同化を図ることにより、様々な分野の学生が一緒になることは良い取組事例なので、もっとアピールすべき。
- ・資料案の中にこれだけのボリュームの情報を同じ枠で並列的に盛り込むよりも、特にアピールしたい部分をピックアップした方が良いのではないか。

②今後の方向性・戦略に係る意見

- ・我が国においては、昔は繊維産業などが中心で、徐々に重工業や自動車産業などにシフトしてきたという経緯があるが、再び繊維産業は発展する可能性もあるので、今後の繊維の位置づけを慎重に検討すべき。
- ・企業では、会社名は昔のままでも仕事の中身が時代の変遷とともに変わっている会社もある一方で、老舗のように昔からずっと同じスタイルを維持している会社もあるので、本学においても、どちらを目指すのか検討する必要がある。
- ・大学における教育と研究の比率・ウエイトの在り方を検討すべきであり、必要に応じて、分野の淘汰等についても検討していくべき。
- ・京都のイメージと工織大のイメージがマッチングしているのは強みであるので、京都に立地している優位性をもっとアピールすることにより、知名度を向上させるべき。
- ・今回のミッション再定義においては、ある意味、大規模大学より小規模大学の方が特徴を打ち出していきやすいのではないか。例えば、基礎研究を押さえた上で、京都らしさを売りにした人材育成を行うことで、他大学の学生とはひと味違う人材を社会に送り出すことができるのではないか。
- ・昨今、日本の学生の質の低下が指摘されており、優秀な人材は海外に求める風潮もあるが、工織大の学生はレベルが高いと感じている。このことは、先生方がしっかりと教育を行われている成果なので、その点をもっとアピールすべき。
- ・例えば、飛行機の部品などでは、小規模の企業が利点を活かし、大量生産の大企業では対応できないニーズに応じてシェアを占めている。工織大も小規模である利点を活かしたオンリーワンを打ち出すべき。

- ・資料では「我が国でオンリーワン」というキャッチコピーが目立っているが、京都から世界へ発信していくという国際展開力を武器に、「世界のオンリーワン」を目指すという姿勢を打ち出してはどうか。
- ・グローバル化が進んでいる中、他国と比べ日本人学生の語学力は著しく乏しい。日本の大学は、もっと語学教育に力を入れるべきであり、大学の特色を出す意味においても、語学教育を強めていくべき。
- ・産業界は良い人材を欲しがっており、即戦力的となりうる資質を持つ工織大の学生を欲しいという企業は多いので、教育の成果である学生の質の良さをもっとアピールすべき。
- ・京都のニュースはローカルに留まらず、全国のメディアに取り上げられる傾向が強いなど、「京都」という地域が持つ魅力・ポテンシャルは極めて高いので、京都という土壌を大切に打ち出していくべき。
- ・大規模大学と工織大とでは求められるものが違うであろうし、他大学にないものが本学にあるということを強くアピールすべき。
- ・日本の大学の80%を私立が占めている中、国立大学の在り方が問われているものと考えられ、中教審の方針や世論の厳しい意見の中で存在意義をアピールしていく必要があるが、今後、国公私立を含めた大学界全体の改革が求められた場合、国公私立の連携事業は極めてユニークであることから、強くアピールすべき。
- ・グローバルな人材を育成するためには、現在、内向き指向である学生の意識改革を図り、どのようにして外に向けていくかを考える必要がある。
- ・小規模な大学が特色を活かす意味においても、大学連携や地域連携を大事にしていく必要があるし、今後さらに発展させていく必要がある。

審議事項4. 財務指標を踏まえた対応の方向性について

財務課長より財務指標を踏まえた対応の方向性について議案書に基づき説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

報告事項1. 公務員の給与改定に関する取扱いについて

山下財務・労務担当理事より、公務員の給与改定に関する取扱いについて議案書に基づき報告があった。

報告事項 2. 平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
林評価・学生担当理事より、平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について議案書に基づき報告があった。

報告事項 3. 平成 24 年度国立大学法人等施設整備費補助事業の内示について
山下財務・労務担当理事より、平成 24 年度国立大学法人等施設整備費補助事業の内示について議案書に基づき報告があった。

報告事項 4. 本学の主な出来事について
学長より、本学の主な出来事（平成 24 年 4 月～平成 24 年 12 月）について、議案書に基づき報告があった。

報告事項 5. 教員・学生等の受賞状況について
学長より、教員及び学生等の受賞状況（平成 24 年 4 月～平成 24 年 12 月）について、議案書に基づき報告があった。

配付資料

平成 24 年度第 3 回経営協議会議案書